

西宮ワイズメンズクラブ 65年の歩み

西宮YMCAと共に



希望に燃えた出発



▲ポールスタークラブ（1945～6年頃）



若狭 英一君

長く苦しい戦争が終わった1945年、西宮市高木字中坪（現西宮市甲風園1丁目）に住まいしていた、善積英一氏は、空襲で焼け野原となった故郷西宮を眺め
“**将来の日本を救うには自分が育てられたYMCAを設立する以外に道はない**”
と自宅を開放して、若い男女の社交性の育成を目的とした「ポールスタークラブ」を結成した。

これは、1925年頃、慶応大学のウォルサー教授の活動に感化したもので、近隣の若者が集まり議論に花を咲かせていた。この活動はやがてYMCA設立へと形を変えて行く。



西宮にY M C Aの設立は、善積英一氏の夢であった。

彼の呼びかけに、関学Y M C Aの藤田允（まこと）、野田正彦、大西善次郎が加わり、1947年3月7日、西宮中央教会にて発会式を挙行した。大阪Y M C Aより奈良伝総主事、神戸Y M C Aより本城敬三総主事も駆け付けた。

西宮Y M C Aは、理事会を組織し、理事長に善積英一氏が就任した。



西宮ワイズメンズクラブ誕生



▲西宮ワイズメンズクラブチャーターナイト（1948年5月18日）

翌年、1948年5月17日、善積氏の協力者であり、賀川豊彦氏弟子の山口政雄氏や、大阪YMCAで活動していた森田義治氏、朝日新聞の勝村泰三氏、隣家の高田壮介氏、関学の半田一吉氏や加藤民雄氏、神戸クラブから川瀬貴誉一氏が加わり、大阪クラブのスポンサーにより、全国で12番目のクラブとして、西宮ワイズメンズクラブが誕生した。



山口政雄氏（山口政紀ワイズの父君）

1926年に19歳で、賀川豊彦氏の活動に加わり、翌年秘書を務める。また、大阪YMCAの会員でもあった。

1934年に結婚後、神戸市灘区弓木（ゆみのき）町に新居を構え、神戸YMCA及び、神戸クラブの会員となる。

1946年西宮YMCA設立時は理事を務め、1947年西宮クラブ設立時の会長も担われた。



活発な活動を展開



▲甲山や船坂の寺院を利用して実施された夏期キャンプ
(1948～9年頃)

西宮クラブは、西宮Y M C Aと共に
(**どちらも同じメンバーである**) 戦後の
青少年のためによく働いた。キャンプの
ために寺院を借り、西宮市社会教育課と
提携して活発な活動を展開し、戦後心身
共に飢えた青少年に潤いを与え続けた。

「夏季学校は、西宮市北部船坂の寺で蚊
帳を吊って子供たちと一緒に物資不足の
中、スイカを食べた思い出が懐かしい」
(川瀬ワイズ談)

このように、西宮Y M C Aの活動は活
発で、会員数100名以外に、240名
の子供たちが登録されていた。

苦難の時代



▲1965～6年の西宮ワイズメンズクラブ主要会員

西宮クラブに1958年頃から沈滞の兆候が現れる。拠点の無い運動は制約が多く例会場も会員宅や教会を転々としていたため運動にムラが生じる。メンバーは増えないが数人でも辛うじて例会を守り続けた。

継続は力なり、1960年代になるとメンバーも増え幾分活性化する。1964年には淡路島の洲本にクラブ設立の協力をする
(スポンサー神戸クラブ)。



一方で、西宮 Y M C A は、活動拠点を設ける希望が芽生え、西宮クラブも協力して会館獲得のため募金活動を行うが失敗に終わる。加えて、主要会員が公私共々に多忙となり活動が思うに任せなくなってきた。

ボランティアとして会員が支えていた Y M C A 運動の限界であったかもしれない。1947年に発足した西宮 Y M C A は、20年後の1968年に理事会を解散し休会することになる。

「私どもが今まで培った西宮 Y M C A の地盤をそのまま簡単に放棄する訳に参らぬ。がん首を揃えて相談するが、金もなし、力も不足、逆さに振っても良い知恵が出ぬ。なんとかせねばと神戸 Y M C A へお願いに行く。

神戸 Y も生田に移転、新築中の苦勞の真っただ中。戦後経済復興の嵐が吹き荒れ、自分のところだけでも精一杯。

頼みの綱はワイズメンの絆だけ」

(川瀬ワイズ談)

新たな出発



▲開設当初の西宮YMCA会館



▲西宮YMCA入口

神戸YMCAは、日本YMCA同盟の都市部強化方針を受け、広域な展開を検討する。少年部と教育部は、エクステンションを計画し、西宮で幼児教室、1971年には、関学グラウンドで早朝サッカーが開始される。さらに、予備校、高校生科の設置が検討される。

このような神戸YMCAの西宮への展開は、西宮クラブとしても西宮YMCA再建へ大きな期待を寄せるところとなり、川瀬ワイズが募金委員長として努力した。

その後、神戸YMCAは、1975年に西宮神楽町に廃園となっていたキリスト教幼稚園「お庭の幼稚園」の譲渡の申し出を受ける。かねてよりのエクステンション計画に従い、1976年4月に「神戸YMCA西宮ランチ」として西宮YMCAが新たな出発をする。

初代主任主事は、当時の古谷武雄会員活動部主任（元西宮クラブメンバー）が兼務として担うこととなった。





▲新会館献館式(1981年4月15日)

西宮を中心とする地域は主に文教居住地区であるため、進学教育とファミリーを対象とした「生活の施設形態としてのコミュニティ拠点」として、多くの子供達が集まった。その後、体育活動や野外活動、幼児教室が始まり充実したプログラム展開をする。

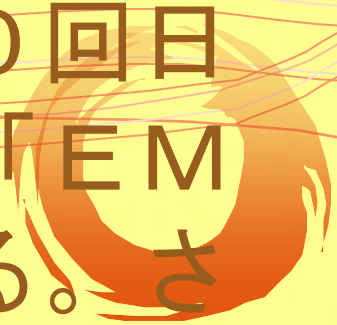
新生西宮YMCAの開拓は、30年にも及ぶ前史の恩恵か、極めて順調であり、開設4年目の1981年に新会館の建設にこぎつけた。



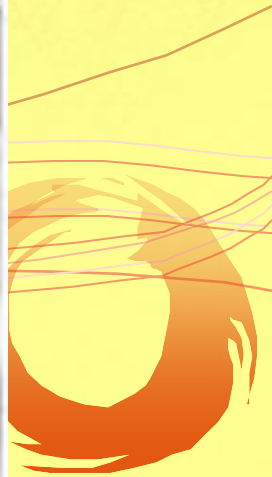
西宮クラブの復興期（1983年～）



Y M C A と共に活動を継続してきた西宮クラブは、1983年の山口政紀ワイズの転入会、翌年1984年の山口徹ワイズ（現神戸クラブ）の転入会を皮切りに入会ラッシュが始まる。廣瀬、濱、山本、石坂の4名が同時入会。後、1985年にかけて6名が入会し、第40回日本区大会にて「国際会長特別賞」「EMC賞」「優秀クラブ賞」を受賞する。さらに、翌年には日本区理事特別賞を受賞する。



宝塚地区への展開



活発な活動を展開する西宮YMCAの10周年を迎える1985年には、活動を宝塚に広げるため、「宝塚におけるYMCA運動の展開を考える会」が発足する。やがて、1986年に阪急逆瀬川駅前地域事務所を開設するに至る。

この動きを受け、西宮クラブでは宝塚クラブ発足に向けて宝塚YMCAにて例会を数回開催する。ついに、1988年5月に宝塚ホテルにて、西宮クラブ40周年記念式典と宝塚クラブチャーターナイトを合わせて行った。東京より広島までの15クラブから160名が集った。

三田地区への展開



それより4年後の1992年にYMC
Aは大規模な新興住宅地である三田市に
エクステンションする。西宮クラブは、
宝塚クラブと共にさんだクラブ設立につ
いて研修会を開いた。宝塚クラブ設立か
ら5年後の1993年に関西学院千刈セ
ミナーハウスにてさんだクラブチャー
ターナイトが行われた。この時、西宮ク
ラブは45周年であった。

翌年の日本区第一回西副区大会において、
さんだクラブ設立に対し「EMC新クラ
ブ設立賞」を受賞した。



西宮クラブ50周年記念事業 (LD教育支援)



1993年、まだ学習障害がほとんど社会的に認知されていなかった。LD児・者の親の会では、補習的な活動を行える場所を探していた。西宮YMCAは1994年に全国に先駆け、大阪教育大学の指導を得て教育事業としてスタートさせた。しかし、まだまだ社会認知度の低い活動ゆえ、さまざまな問題を抱えていたため西宮クラブでは、クラブ50周年記念事業として、これを支援することに取り組む。兵庫県市島町での田植え、稲刈りプログラムは楽しい活動であった。

西宮クラブ50周年記念事業（LD教育支援）





過去から未来へ

- ・西宮クラブ、YMCAの原点は、善積英一氏の「**将来の日本を救うには自分が育てられたYMCAを設立する以外に道はない**」に始まる。
- ・いじめ、不登校、犯罪の凶悪化など様々な問題がとりまく中で、**将来の希望である青少年の健全な育成にはYMCA運動を維持発展させるしかない。**



過去から未来へ

・西宮におけるYMCA運動は、主に文教居住地区であるため、進学教育とファミリーを対象とした「生活の施設形態としてのコミュニティ拠点」として発展する。

今後の展開として、保育園、学童保育のファミリー層へのアプローチは重要と思われる。



過去から未来へ

・西宮Y M C Aは、ここ数年来、会員の減少に歯止めがかからない。Y M C Aが苦しい時に、それを支えた先達の言葉

「私どもが今まで培った西宮Y M C Aの地盤をそのまま簡単に放棄する訳に参らぬ。なんとかせねば・・・（中略）」

頼みの綱はワイズメンの絆だけ」

を思い返す。



過去から未来へ

- ・ 今後のY M C Aのキーワードは、
「連携」 「ファミリー」

Y M C A、保育園、ワイズ、
ユースリーダーが連携して、保育園
や学童保育のファミリーに、保育園
から大学生、社会人まで連続
したプログラムを提供し、会員増強
をによる相互発展を望みたい。



65周年に感謝し、新たな第一歩を



ご清聴ありがとうございました。

